

授業科目	行政法演習
演習題目	行政法の主要論点を攻略する
担当教員	大脇成昭
授業の目的	行政法に関係する判例や制度、社会的事象などを素材として、社会において有用な「考える力」「議論する力」「書く力」を高めること。
履修条件	行政法Ⅰ（行政過程論）を2年次に履修していることが必要（ただし単位取得の有無は不問）。また、新3年生はこの演習と並行して、2026年度前期に開講される行政法Ⅱ（行政救済法）を履修することが必須である。
教科書・参考書	参考書： <ul style="list-style-type: none"> ・大橋洋一『行政法Ⅰ-現代行政過程論（第5版）』（有斐閣・2023年） ・大橋洋一『行政法Ⅱ-行政救済法（第5版）』（有斐閣・2025年）
授業の計画・内容	前期は重要判例を素材とした研究報告、後期は各自で設定したテーマの論文執筆に取り組む。 【前期】 1回 オリエンテーション：自己紹介、報告順、ゼミ委員の決定など 2～12回 判例研究報告 13回 後期のゼミ論文テーマの決め方など 【後期】 14回 後期の報告に向けての確認など 15～25回 ゼミ論文の構想や進捗状況を個別報告 26回 ゼミ論文発表会
成績評価の方法	前期・後期のグループまたは個人による発表と、学年末のゼミ論文の提出が必須である。毎回の出席を前提に（無断遅刻・欠席はマイナス評価となる）、これらの内容を総合して、成績評価を行う。